

令和4年度12月 定例教育委員会会議録

令和4年12月20日（火）

山梨市教育委員会

令和4年度12月 定例教育委員会 議事録

令和4年12月20日(火)午後1時30分から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録署名
- 4 協議事項
 - (1) 新たな教育支援について
 - (2) 山梨市総合教育会議について
 - (3) その他
- 5 報告事項
- 6 連絡事項
- 7 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	窪田 新治
教育委員	武井 茂
教育委員	矢野 眞由美
教育委員	天野 有紀

○事務局職員出席者

学校教育課長	磯村 賢一
学校教育課 指導主事	小串 吾郎
学校教育課 学校総務担当リーダー	小池 かおり
生涯学習課 生涯学習担当リーダー	根津 道仁
学校教育課 教育支援センターWith 事務局長	古屋 真吾
学校教育課 学校総務担当(議事録作成者)	小田切 咲紀

4 協議事項の内容

教育長

議事に入る。

(1) 新たな教育支援について及び (2) 山梨市総合教育会議について、合わせて事務局から説明をお願いします。

学校教育課 磯村課長 資料1・2に基づき説明

教育長 補足説明

武井委員

ECHOES 学習について、学校ではこういった取り組みを理解しているのか。体験学習については、山梨市の良さや地域素材を活用することを考えると、コメ作りは違うと思う。稲作が盛んな地域ではないので学校から田んぼまで長時間移動することになり、普段から管理することができない。また、モモ・ブドウの体験学習も低学年には作業が難しい。地域とつながりを持つことは大事だと思っているので、内容は今後精査して行ってほしい。

例えば地域の人を学校に招いて実際に行っている果樹栽培の話の聞いたり、共撰所に行って出荷の様子を見て流通について学ぶなど、農業体験ではない体験も考えられる。5年生の研修旅行で東京の市場を見学することもできる。地域の実情を学ぶ機会にしてほしい。

指導主事の増員については、現場との連携をさらに充実していくために1名増やすことは非常に良いと思う。

窪田職務代理

ECHOES 学習は面白い取り組みだと思う。山梨市ではモモ・ブドウを中心に街づくりを行っているが、単にモモ・ブドウについて学ぶのではなく、例えば中学校で6次産業化について勉強するのはどうか。田舎に住み田舎の良さを生かしながら地産地消をしたりワインやジャムといった加工品を生産・販売したりという考え方を学ぶことができると思う。フランスなどではワインリゾートの構想が強いが、山梨市でもそういう考えが出てくると良い。

中学生までにそんな考えを学ぶことで将来ここに住む子供たちが少しでも増えると良い。自分の市や市の伝統に誇りを持ちここに住む子供たちを作らなければ街の発展にはならないということを踏まえて、学習内容を考えてほしい。

教育推進コーディネーターについて、何人の配置を予定しているのか。

教育長

1名を予定している。現在市全体でコミュニティ・スクールを設置しているが大きな変化が見られないので、連携役が必要だと考えている。

窪田職務代理

校長先生や教頭先生の中にもコミュニティ・スクールについて誤解している人が多い。委員の力を借りて学校を良くするのではなく、地域のいろいろな方をコーディネートして学校につなげていくことが大事だ。コーディネーターは小中1名ずつ程度いても良いと思った。

教育長

学校評議会から脱却できていないところがある。草刈りや剪定といった学校の作業を委員にしてもらうのではなく、委員の経験値やネットワークを使って学校の要望に合った人材を紹介してもらおうという趣旨を周知していきたい。コミュニティ・スクールは市全体でやっている取り組みなのでテコ入れを図りたい。

矢野委員

モモについて配送品の送り返しの話をよく聞き、加工して瓶詰めをしているそうだ。例えば、子供たちが実際に加工品を作って朝市で販売するような体験があればすごく良いと思う。また、廃棄物であるモモの粒を商品化した例を知っているが、そういう商品開発は農家の方は忙しくてとてもでないがやってられないという声を聞いた。そういった捨てるものを生かして商品を開発したり提案したりする経験も良いだろう。

教育長

実際に商品になるかは別として経験をするのは良いことだと思う。

武井委員

生産から販売までを行う経験は良い。かつて小学校で栽培した野菜や植物を地域の祭りで売ったことがある。ただ作るだけでなく、自分たちの育てた野菜を給食で使ってもらったり販売してみたりと、汗を流した結果が成果としてわかると良い。

コミュニティ・スクールを勘違いしている面は多いと思う。ただ会議を開くのではなく、課題に取り組み結果を出すことが大事だ。コーディネーターが人材を派遣するために、学校側で具体的な目的を持っていないといけない。また、地域側でもコミュニティ・スクールがあることをわかっていないように思う。

天野委員

計画には3年生の授業時数が25時間となっているが、体験的な学習で25時間は一般的な内容をさらっと学ぶだけで終わってしまう。子供たちが考え実践し何か

を学び取るには少ない時間数だ。また3年生には3年生なりの理解力があり、それを4年生で深め、5年生、6年生の学習へというふうに、一つのものを長いスパンで深めていくほうが子供たちにとっては良いと思う。何度も同じ畑に行ってそこのおじいちゃんおばあちゃんにかわいがってもらえるような、地域とのつながりを作るには長いスパンで深く学ぶやり方が良いだろう。

教育長

具体的な内容は仮の状態なので今後内容や時間について検討していく。ECHOES 学習のテーマの一つに「サステイナブル」を掲げたが、これは特定の先生が担任の時だけできる授業ではなく、骨格を作ることによって誰が担任でもブレない授業内容を目指している。

本日の意見を総合教育会議にも活かしていきたいと思う。

教育長

次に (3) その他、何かあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了